出雲市男女共同参画まちづくりネットワーク会議

【事務局】出雲市男女共同参画センター（くすのきプラーザ）
〒693-0011出雲市大津町2096－3
TEL：0853-22-2055　FAX：0853-22-2157
E-mail：women@local.city.izumo.shimane.jp

令和4年（2022）3月　発行

災害時の

安心安全な避難所づくりハンドブック

出雲市男女共同参画まちづくりネットワーク会議

地域防災に関わる皆様へ

災害が起こると、自宅に住むことができなくなった被災者は、避難所生活を強いられることがあります。

阪神淡路大震災や東日本大震災の際、長期にわたる避難所生活において、高齢者や障がい者等様々な事情を抱える方が避難所に居づらくなったり、女性や子どもが犯罪に巻き込まれたりするなどの問題が起こりました。これらは、避難所運営に女性が十分に参画していなかったことで女性の声が届きにくかったり、女性と男性のニーズの違いを男性が十分に理解できていなかったことが原因と言われています。

このことから、出雲市男女共同まちづくりネットワーク会議では、すべての人が安心で安全に過ごせる避難所づくりについて、ポイントをまとめたハンドブックを作成しました。

また、出雲市では、避難所運営を体験できるゲーム「男女共同参画ＨＵＧ（ハグ）」（P5～6参照）の出前講座も行っていますので、あわせて地域の防災訓練や研修にお役立ていただけると幸いです。

＜参考資料＞
- 男女共同参画視点を取り入れた「安心避難所づくり」ハンドブック（青森県）
- 男女共同参画の視点で実践する災害対策テキスト災害とジェンダー（内閣府）
- 災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～（内閣府）
- 東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書（東日本大震災女性支援ネットワーク）

男女共同参画視点での防災

出雲市男女共同参画まちづくりネットワーク会議
会長　内藤　正和

東日本大震災以降、日本列島は地震の多発期と言われ、毎年どこかで大きな地震が起きています。さらには、大型の台風や線状降水帯により多くの被害が各地で発生している状況です。出雲市においても令和3年7月に大雨災害が発生し、市内全域に避難指示が出されました。

災害時の、特に長期にわたる避難所では、地域住民の助け合いが必要不可欠です。この「安心安全な避難所づくりハンドブック」では、全国各地の避難所づくりの経験談をもとに、男女共同参画的な視点でのポイントを記載しました。

「男女共同参画HUG」は、ハンドブックにあるような、避難所で起きる様々な問題にどう対応したら未然に防ぐことができるかについて考えるゲームです。出雲市男女共同参画まちづくりネットワーク会議では、このゲームを多くの方に体験いただき、地域の防災について考えるきっかけづくりになればと考えています。

運営委員会による「男女共同参画HUG」の実施の様子

災害に強い出雲市とするため、地域の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

出雲市男女共同参画まちづくりネットワーク会議とは・・・

平成17年に「出雲市男女共同参画まちづくり実行委員会」として設立。平成18年には市と協働で「男女共同参画都市宣言※」を行う。平成21年に「出雲市男女共同参画まちづくりネットワーク会議」に名称を変更。様々な活動をしている市内の団体や個人が、情報交換を行いながら相互に連携し、男女共同参画社会の実現のための啓発事業を企画・実施している。（会員25名　2022年2月現在）

※男女共同参画都市宣言
子どもから高齢者まで、誰もがいきいきと自分らしく生活できる男女共同参画のまちづくり実現へ向け、平成17年12月に「男女共同参画都市宣言」を行った。翌年3月には「出雲市男女共同参画宣言都市記念式典」を開催。平成20年（2008）11月に「全国男女共同参画宣言都市サミットinいずも」を開催し、出雲市での男女共同参画の機運を高めた。

安心安全な避難所づくりのポイント

これまでの災害において長期避難所生活で起きた
問題と改善のヒントをまとめました。

Point

避難所運営メンバーに女性を3割以上入れましょう。

災害時は誰もが過酷な状況に置かれます。「みんなが大変だから、これぐらいは我慢しなければ」とか「私の問題はたいしたことない」と思い込んでしまう傾向があります。

これまでの避難所運営は男性に任せることが多く、避難所の生活ルールづくりに女性からの要望が出しにくく、出したとしても男性には理解されないこともありました。そのため、女性は避難所に居づらくなることを危惧して声を上げずに我慢し、問題への対応がなされないまま劣悪な環境での暮らしを余儀なくされました。このようなことを起こさないためにも、運営には女性も参加する必要があることを、みんなで意識しましょう。

Point

物資配布係には女性を入れましょう。

過去の災害では、物資配布係が男性だったため、「下着や生理用品などが受け取りにくく、要望も出しづらかった」、「物資の中に粉ミルクや哺乳瓶はあっても、お湯や消毒剤がなかったため使用できなかった」、「配布される下着がMサイズばかりで使えなかった」など女性や子育て家庭等からの要望に十分対応できませんでした。物資配布係に女性を入れる、生理用品は女子トイレに置くなどして、必要な人に渡るよう工夫しましょう。

Point

特定の人に負担がかからないよう、役割は交代して行いましょう。

ある避難所では、女性団体の人たちが毎日炊き出しを行っていましたが、長期にわたるとみんなの疲れがピークに達し、ストライキを起こす結果となりました。

また、乳幼児や要介護者が家族にいる女性は、「子どもの世話、介護、家事は女性の役割」という性別役割分担意識により、家族のケアと地域の炊き出し等の二重の負担を抱えました。個人の事情に配慮したうえで、特定の人ばかりに負担がかからないよう役割分担をしましょう。

Point

男性用トイレと女性用トイレの割合は1:3で。共用トイレも設置しましょう。

避難所のトイレは切実な問題です。避難所に設置された仮設トイレは、「混雑している」、「暗い」、「汚い」、「男女兼用」などの問題があったため、なるべくトイレにいかずにすむよう食事や水分の摂取を控え、体調を崩した人もいました。

また、トイレは密室になるため、女性や子どもが犯罪に巻き込まれやすい場所にもなります。男女のトイレの距離をあけ、照明や防犯ブザーをつけるなど、安心して使用できる場所にしましょう。救助活動の国際基準では、男性トイレと女性トイレの割合は1：3が推奨されています。また、共用トイレがあると、乳幼児や高齢者、障がい者や病気で付き添いや介助が必要な方、トランスジェンダー（心と体の性が一致していない人）の方等も使いやすくなります。

Point

更衣室や物干場は男女別に設置し、プライバシーに配慮しましょう。

過去の災害では更衣室がなかったため、毛布や仮設トイレの中で着替えをする女性がたくさんいました。入浴ができない中、せめてこまめに下着を交換することができれば良かったのですが、着替える場所も下着を干す場所もなく、不衛生な状態から病気になった方もいました。更衣室や物干場は男女別に設置し、様々な人が使いやすいように共用も設けておきましょう。例えば、テントを張り周りをブルーシートで囲めば、周囲から見えにくい物干場を設置することができます。お互いのプライバシーに配慮しましょう。

Point

子どもや高齢者等を持つ家族が安心して過ごせる場所をつくりましょう。

女性は家事・育児・介護など家族のケアを担っていることが多く、災害時にはその負担が増大し、ストレスや心身の不調を抱えがちになります。「授乳室やオムツを替えるスペースがない」、「子どもの泣き声が迷惑になる」、「普段とは違う場所のため家族がパニックを起こした」などのことから、避難所に行かず、危険な自宅に留まった方もおられました。人目を気にせず家族のケアが行えるよう、別室を設けるなどの工夫が必要です。

Point

避難者名簿に情報の公開・非公開の欄を設けましょう。

被災によるストレスで新たにDVが始まったり、災害前からの暴力が悪化したり、義援金を渡さない、家から出さない等、暴力の形態も変化します。過去の災害では、DVから逃げている被害者が、避難所で加害者とばったり出くわしたことがありました。被害者から申し出があれば、安全な場所を確保しましょう。

また、避難者名簿に情報の公開・非公開の欄を設けておくと、DV被害者や様々な事情を抱えた方のプライバシーを守ることができ、安心と安全につながります。

Point

性被害を防止するための見回りの強化や、相談先の掲示をしましょう。

災害時は被災によるストレス、避難所という密集した状態、外部の目が届きにくい、声を上げにくいなどの特殊な環境条件が重なることで、弱者への暴力が起こりやすくなります。過去の避難所では、強制性交や性暴力、性的嫌がらせがおきています。性暴力は若い女性だけでなく、年齢や性別に関係なく被害に遭うこともあります。ボランティアや支援者からの暴力やセクハラ、また、その逆もあります。避難所の見回りを強化し、避難所内に相談先を掲示するなどして被害を防止しましょう。

また、相談者に男性・女性・外国人専門の人がいると相談がしやすくなります。

男女がお互いを思いやり支え合う「男女共同参画の意識」をもつことで
災害時の二次被害を防ぐことができます。
また、女性と男性がともに防災・復興に参画し協力するようになると
災害に強い社会が作られるようになります。

地域の防災訓練や研修で長期の避難所運営を体験してみませんか?

男女共同参画HUG（ハグ）

男女共同参画　HUG（ハグ）とは・・・

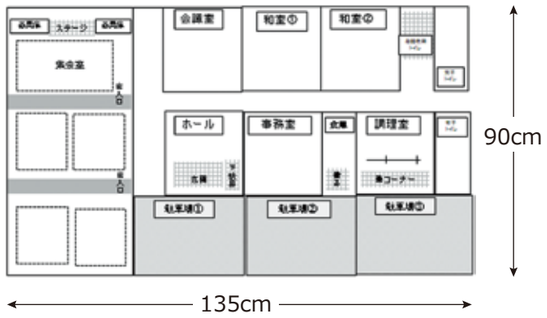
HUGは、Hinanzyo（避難所）、Unei（運営）、Game（ゲーム）の頭文字を取ったもので、英語の「抱きしめる（hug）」という意味も含んでいます。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられたものです。

カード1枚を1人の避難者に見立て、架空の避難所となる平面図にどれだけ適切に配置できるか、受付やトイレなど避難所に必要なスペースを配置するゲームとして、静岡県が作成した『避難所HUG』を参考に**出雲市が男女共同参画版として作成**しました。【静岡県使用許諾番号017号】

＜避難者カード＞ 85枚

＜スペースカード＞ 40枚

＜避難所図面＞ （A３用紙3枚 A４用紙11枚）



【ゲームの方法】※90分コースと120分のコースがあります。

①導入 ➡ ②DVD視聴 ➡ ③ゲーム ➡ ④ふりかえり・まとめ ➡ ⑤アンケート

ゲームでは、仮想のコミュニティセンターの図面に、地区・カード番号・名前・家族構成・年齢・様々な事情が記載された避難者カードと、物資や必要なスペースが記載されたスペースカードをグループで話し合いながら適切な位置に配置していきます。

ゲームを通して、**長期避難所生活の運営や、女性や子ども、様々な事情をかかえる人にとって、どのような困りごとが起こるのか、どうしたら防げるのかを学ぶことができます。**

男女共同参画HUGについてQ&A

Q1. 男女共同参画HUGは販売や貸出をしていますか?

A1. 販売や貸出はしていません。出雲市男女共同参画出前講座として、センター職員が依頼先にお伺いしてゲームを行います。

Q2. 男女共同参画HUGをするのに料金はかかりますか?

A2. 会場費と資料の印刷代をご負担ください。出雲市男女共同参画センター（くすのきプラーザ）や平田ふれんどりーハウスで開催する場合は、会場費は無料です。

Q3. 何人でゲームができますか?

A3. 1グループ4～6人で行います。男女共同参画HUGは10セットあるので、最大６０人程度の研修に対応できます。

Q4. 何を準備すれば良いですか?

A4. 電源、延長コード、スクリーン（壁可）、マイクの他、1グループに長机（長さ180cm×幅45cm程度）2～3台、参加者用の椅子をご用意ください。

Q5. どのくらいの広さが必要ですか?

A5. 必要な机と椅子が配置できる広さの会場をご用意ください。

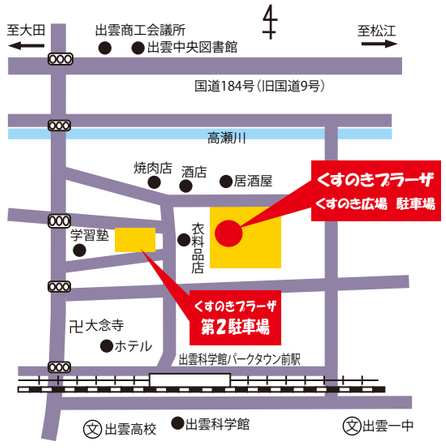
Q6. 予約が必要ですか?いつまでに予約すれば良いですか?

A6. 2か月前までに開催候補日をお知らせください。日程調整後、担当者が会場の下見と打合せに伺います。

【申込・問合せ先】

出雲市男女共同参画センター（くすのきプラーザ）

〒693-0011出雲市大津町2096-3
TEL：0853-22-2055　FAX：0853-22-2157
E-mail：women@local.city.izumo.shimane.jp
受付時間　9:00～17:00（日曜日・祝日を除く）
休館日　年末年始（12月29日～1月3日）

※詳しくはHP くすのきプラーザ を検索

QRコード